

2023, 2, 5(日) オービック御堂筋ビルにおいて、日本臨床歯科学会 大阪支部

2022 年度 第 4 回例会(第 224 回 日本臨床歯科学会 大阪支部例会)が開催された。

衛生士セッションでは新型コロナウイルス感染防止に、引き続き配慮しつつ、会場では、席の間隔を十分に取り、開催した。

今回の演者は、かとう歯科に勤務されている東 英里奈さんと、大森歯科に勤務されている浦上 眞帆さんだった。

東 英里奈さんが、「予防とは何か～かとう歯科におけるカリエスコントロール」という表題で発表された。

2020 年 3 月頃国内で初のコロナウイルスの感染者が報告され、それ以来国民の生活環境が大きく変化した。またそれに伴い患者様の口腔環境にも変化が出てきたと感じられ、う蝕の急進行やう蝕多数歯が生じる事例などが増えてきた事に対し、う蝕の早期発見・早期治療を目的とする取り組みを話された。

定期的な検査のマニュアルを実行する事により、う蝕予防に効果が出ていると

結果を出され、とても素晴らしいと感じた。

一方、浦上 眞帆さんは「重度歯周病患者の治療における動揺歯への対応」という表題であった。

1人の患者様の症例から、歯科衛生士が理解しておかなければいけない原因の追求やそれに対する治療法および評価方法を分かりやすく報告された。

今回は動揺歯のメンテナンスを行う上で、動揺歯のマネージメントを理解しておかなければ、歯そのものの保存や健康維持が出来ないことが、改めて理解できた。

今回もそれぞれ素晴らしい臨床スタイルと同時に、お二人の日々の学びの深さが伝わった。

教育講演では、こばやし歯科クリニックの小林 実先生が、

「メンテナンスしていく上で知っている便利な歯のお話し～歯内療法の観点からメンテナンスを再考する～」

という表題で講演された。歯科衛生士は歯内療法学を学ぶ機会はとても少ない。けれども、近年、象牙質・歯髄複合体という考え方が定着し、その観点から歯髄の病態を新しい考え方として臨床に取り入れる必要があり、歯科衛生士も治療を行う上で、必要な知識となってきた。

また、メンテナンスで歯を保存するにあたり、歯内療法を学ばなければ、長期的に継続が難しいということも学ぶことができた。

今回も、それぞれの演者がとても素晴らしい着目点と臨床スタイルを構築していると同時に、お二人のモチベーションの高さに大きな刺激を受けた。

そして、教育講演では歯を保存するにあたって、歯髄との大きな関わりを知ることができて、とても学びになった。

広報担当 岩田 智央



